

# 幌加内町防災備蓄計画



令和4年4月

幌加内町

## 目次

1	はじめに	1
2	基本的な考え方	1
	（1）家庭内備蓄	
	（2）事業所等の備蓄	
3	行政備蓄の果たす役割	2
4	行政備蓄の対象人口の想定	2
5	行政備蓄品目および目標数	3
	（1）食料	
	（2）生活必需品等	
	（3）資機材	
6	備蓄倉庫	3
7	資料編	4

## 1 はじめに

本計画は、「幌加内町地域防災計画」における「物資及び防災資機材等の整備・確保に関する計画」に基づき、備蓄に対する個別計画として策定するものです。

平成23年3月に発生した東日本大震災や平成28年4月の熊本地震などの大規模災害のみならず、平成28年7月から8月にかけての大雨や台風による本町をはじめ道内各地での水害など、自然災害は予測不可能であり、日ごろの災害に対する備えが重要です。

広大な面積を有する本町は避難所も多く指定しているところであり、災害時の支援物資の搬送などにも時間を要することから、各指定避難所における必要物資などについても、予め備えておくことが必要です。

こうしたことから、様々な備蓄品についての基本的な考え方について、この計画で定めるものです。

なお、本計画は、現在の人口や指定避難所の数などをもとに策定したものであり、今後5年ごとに見直しを行い、新たな課題が生じた場合には、その都度修正するものとします。

## 2 基本的な考え方

災害時の備蓄体制については、「自助」、「共助」、「公助」の考えを基本とします。これらの考え方をもとに、家庭内備蓄（自助）、事業所備蓄（共助）、行政備蓄（公助）をふまえ、町民・事業所・行政が一体となって備蓄体制の整備を推進します。

### （1）家庭内備蓄

町民自らが、平時の時から災害に備え、家庭内で最低3日分以上の食料や飲料水及び生活必需品等の備蓄を行うことを推進するものです。

災害時には被災地域における流通機能が停止するなど、外部からの救援物資が届きにくい状態になることが想定されることから、各家庭における備蓄を促進していく必要があります。

主な備蓄品目は次のとおりです（各家庭では適宜必要なものを備蓄する）

種 別	主な品目
食料	レトルト食品、アルファ米、即席麺、缶詰、乾パン、菓子類、粉ミルクなど
飲料水	1人あたり1日3リットルを目安
生活必需品等	衣類（冬季は防寒服）、毛布、軍手、タオル、医療品、ティッシュ、おむつ、ラジオ、携帯電話充電器、懐中電灯、マスク、石鹼、消毒液等衛生用品 など

## （2）事業所等の備蓄

家庭内備蓄と同様、事業所内で備蓄品を確保しておくものです。災害時に帰宅困難となった場合に対し、安全が確認できるようになるまでの間、事業所で待機・避難できるようにしておく体制の整備が必要です。

主な備蓄品は、家庭内備蓄に準じるほか、ヘルメットやスコップなど屋外での作業に必要な物品を整備することが望まれます。

## 3 行政備蓄の果たす役割

家庭内備蓄や事業者等の備蓄による災害への備えとともに、流通やライフラインが一時的に途絶えた場合を想定し、避難所等で必要とされる物資を行政として備えておく必要があります。特に、災害発生直後においては、生命維持や生活に最低限必要な物資について備蓄するものとします。

## 4 行政備蓄の対象人口の想定

被災想定数100人（水害等人口の約10%が被災したと想定）が、3日間に必要とされる非常食については1日分（3食）で整備することとします。

整備は概ね5年間を目途とし、消費又は使用期限のあるものはその年数から1年を引いた年数で均等に継続して購入するものとします。

備蓄場所は避難所や町の備蓄拠点に分散することが望ましいが、現状では見込みがたたないことから保管場所が確保できしだい分散に向けて対応することとします。

本計画は厳しい財政事情を考慮し、必要性が高いものを重点的に整備することとします。

## 5 行政備蓄品目および目標数

### (1) 食料

食料については、日常生活の主食に近い米飯を中心とし、避難生活をするにあたって必要と思われる次の物資を備蓄することとします。なお、賞味期限が1年を切ったものについては、自主防災組織の訓練や学校における避難訓練などで配布し、防災や備蓄に対する意識向上のために活用することとします。

品目	【目標値】	【備蓄数（R4.3月現在）】
主食 アルファ米、お粥 など	1200食	814食
副食 みそ汁、缶詰 など	1600食	1445食
乳児用粉ミルク	200食	200食
飲料水（500mlペットボトル）	900本	555本

※食料品に関しては、消費期限があるため、古いものから消費し、使用した分を補充するローリングストック方式を採用します。

### (2) 生活必需品等

避難生活を行う際に必要と思われる次の物資を備蓄します。

毛布	マスク
手指消毒液	救急用品（救急箱）
懐中電灯	簡易トイレ（処理剤含む）
ランタン	防災マット

### (3) 資機材

各避難所において避難所生活や災害時の応急対策活動等、避難所運営等に必要と思われる防災資機材及び生活資機材を備蓄します。

発電機	灯油ポリタンク
石油ストーブ	ガソリン携行缶
救命胴衣	段ボールベット
給水袋	パーテーション
コードリール	土のう袋
大型救急箱	投光器

## 6 備蓄倉庫

災害時、備蓄物資の供給対象者に対し、すみやかに必要な物資が適宜配分できるよう、災害時の指定避難所等に分散して物資を配備する環境を整備します。

主要な避難所である学校などではスペースの確保が難しいため、保管スペースに余力のある公共施設などに集中保管するものとします。

## 資料編 年次計画

### 食料品等

品目	2022.3.現在	単位		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	目標値	備考
主食 アルファ米	718	食	整備数	540		200		200	900	消費期限5年
			期限到来減			▲224		▲494		
			残高	1258	1258	1234	1234	940		
主食 お粥	96	食	整備数	150		50		50	200	消費期限5年
			期限到来減					▲96		
			残高	246	246	296	296	250		
主食 パン	0	食	整備数	72		72		48	100	消費期限5年
			期限到来減					▲72		
			残高	72	72	144	144	120		
副食 ビスケット等	427	食	整備数		168		144		300	消費期限5年
			期限到来減		▲69	▲118	▲120	▲120		
			残高	427	526	408	432	312		
副食 缶詰	346	食	整備数	144	108	180	108	180	400	消費期限2.3年
			期限到来減		▲92	▲254	▲144	▲108		
			残高	490	506	432	396	468		
副食 みそ汁	612	食	整備数		150	150	150	150	600	消費期限5年
			期限到来減				▲252	▲360		
			残高	612	762	912	810	600		
副食 野菜スープ	60	食	整備数		60	90	60	90	300	消費期限5年
			期限到来減					▲60		
			残高	60	120	210	270	300		
粉ミルク	200	箱	整備数	200	200	200	200	200	200	消費期限1年6か月
			期限到来減	▲200	▲200	▲200	▲200	▲200		
			残高	200	200	200	200	200		
飲料水 (備蓄水500ml)	555	本	整備数	192	264	144	264	144	900	消費期限5年
			期限到来減		▲8	▲72	▲190	▲264		
			残高	747	1003	1075	1149	1029		

### 生活用品

品目	2022.3.現在	単位	サイズ	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	目標値	備考
懐中電灯	25	個				5	5	5	25	2024年から更新
ランタン	20	個				5	5	5	20	2024年から更新

### 資機材等

品目	2022.3.現在	単位	形式	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	目標値	備考
発電機	8	台		3					10	
石油ストーブ	15	台		3		5	5	5	15	2024年から更新
防災マット	30	枚			20	20	20	20	100	
扇風機	12	台		2		2		2	18	
防護服	40	着			20	20	20	20	100	
土のう袋	385	枚			200		200		400	2023年から更新

---

令和4年4月策定

# 幌加内町防災備蓄計画

(幌加内町総務課)

---